



広島市

図書館 だより

平成29年(2017年)秋 No. 335

- 広島文学資料室は開室 30 周年を迎えました!・・・1面
- 今年もやります!ひろしま図書館まつり
「図書館で発見!～トキメク本はここにある～」・・・2面
- この日は何の日?・・・・・・・・・・・・・・・・・・3面
- 図書館司書がおすすめするこの1冊!・・・・・・・・・・3面
- 西区図書館 業務の一部変更のお知らせ・・・・・・・・4面
- 休館日のお知らせ 10月～12月・・・・・・・・・・4面

広島文学資料室は開室30周年を迎えました!

広島ゆかりの作家と聞いて、みなさんはどのような作家を思い浮かべるでしょうか。広島で生まれ育った作家や、広島を拠点に活動した作家、また、広島を舞台として作品を書いた作家の名前が挙がるかもしれません。

中央図書館3階には、広島にゆかりの深い作家を紹介する広島文学資料室があります。広島文学資料室は、貴重な文学関係資料を収集・保存・活用し郷土文化の発展に寄与することを目的として、多くの方のご協力を得て、昭和62年10月に開室し、この秋、開室30周年を迎えました。

対象作家21名の中には、児童雑誌「赤い鳥」を創刊した鈴木三重吉や、戦記文学やユーモアあふれるエッセイを書いた阿川弘之、長く新聞歌壇でも親しまれた近藤芳美、自らの被爆体験を作品へ結実させた原民喜や峠三吉、生涯現役で多くの脚本を書いた新藤兼人などがいます。

現在、所蔵資料は3万2千点を超え、その内容は、初版本や作品が掲載された雑誌、原稿や創作のためのメモ、生前の愛用品なども含まれており、多彩なコレクションとなっています。これらの資料は、企画展やサテライト展示などの機会を通じてご紹介するほか、鈴木三重吉、原民喜、峠三吉、若杉慧、畑耕一の5名についてはWeb 広島文学資料室としてホームページを作成し、自筆原稿などをデジタル画像で公開しています。

広島ゆかりの作家たちは、広島の歴史や風土を、それぞれの個性豊かな表現で描いた作品も残しています。秋の読書に、広島ゆかりの作家の1冊を加えてみてはいかがでしょうか。

広島文学資料室の作家

- 鈴木三重吉 (小説家・児童文学者)
- 田中 純 (小説家・劇作家)
- 細田民樹 (小説家)
- 若杉 慧 (小説家)
- 大田洋子 (小説家)
- 原 民喜 (詩人・小説家)
- 阿川弘之 (小説家)
- 桂 芳久 (小説家)
- 竹西寛子 (小説家・文芸評論家)
- 梶山季之 (小説家)
- 大庭みな子 (小説家)
- 岡山 巖 (歌人)
- 正田篠枝 (歌人)
- 近藤芳美 (歌人)
- 大木惇夫 (詩人)
- 栗原貞子 (詩人)
- 峠 三吉 (詩人)
- 黒田三郎 (詩人)
- 小山内薫 (演出家・劇作家・小説家)
- 畑 耕一 (小説家・評論家・劇作家)
- 新藤兼人 (脚本家・映画監督)

企画展

「広島文学資料室開室30周年記念 広島ゆかりの文学」

期間：10月7日(土)～11月29日(水)

会場：中央図書館 2階 展示ホール

講演会

「作家が語る創作の内側」 講師：見延 典子 氏 (作家)

日時：10月21日(土) 10:00～12:00

会場：中央図書館 3階 セミナー室

*企画展、講演会の詳細は、中央図書館(082-222-5542)へお問い合わせください。



広島文学資料室へは、3階 広島資料室からお入りください。